R18
Adult Only

駒は木馬を旅する

merry-go-round sin'ou

鶴丸国永×女審神者　Series no.6

あなたさまに一目逢いたくて
この死の間際　私は彷徨った

この穢れた身で今さら
過ぎた願いだというのは
百も承知

だけど私は
忘れられないのです

名を呼ぶと嬉しそうに笑う
その御姿が

私の
白い
綺麗な神様

この身が
人でなければ
良かったのに

……ここは

どこだっけ

わたしはいま
どこを歩いて…

…寒い

あいたい…

……
鶴丸

国永

さま…

呼んだかい？

もうじき夕餉だから呼びに来たんだが寝ていたのか

行けるか？

はっ

す

ぱんっ

すみません私寝ぼけて今行きます！

おいおい

顔が腫れてしまうぞ

上への報告で忙しいんだろう？

きみは根詰め過ぎなんだ

……

どうした？

…ほんの

すこしでいいので

こうしてて…

……

いや

嫌な夢でも見たかい？

……忘れてしまいました

なんの

夢だったのだろう

折角ならこうがいい

そうか

どうして私はいまこれは夢の続きだと思ったのだろう

どうして

鶴丸国永の私を見る視線が
遠くを見るように
変わってしまったのだろう

私は　それが怖い

松木馬は恋を祭う

先日私の本丸の結界に外部からの干渉があり事態が解決するまでの数日間は外出禁止となった

役目である出陣も叶わずにいたが解決後は思ったよりすみやかに稼働を開始した

ではひとまず休んで下さい

怪我した刀(ひと)は手入れ部屋へ

小夜もね

第一部隊帰ったな

続く第二部隊は門に向かうぜ

はい

今行きます

怪我とは言えない程度だと思うんだけど…

だめです

すみません

解除された途端出陣が多くて

むしろ喜んでる連中が多いだろう

俺もそうさ

これが刀の本分ってな

主がお気になさることではありません

我らお役にたてて嬉しいです

ならいいのですけど…

気にするな

…そうだ
厚樫山の転移位置に
見事な女郎花の
群生地があってな

持って
帰ってきて
やろうか

きみ
好きだろう？

あー…
しまった

やはり…
あまり
いい加減なこと
言わんで下さい

ドヤッ

というかきみ
鋭いな…

主のことは兄君より
良く聞いています

幼少より
お好きな花は
紫陽花

他にも色々お教え
しましょうか？

きみ
ずるくないか!?

…一度
お聞き
したかったん
ですが

鶴丸殿は一体
いつの世で主を
見初められたのです

生まれた時より
印があったとすれば
今生ではないの
でしょう？

……

そうだな

今にして思えば
どうしてあんなにも
俺の傍を回っていて
くれたんだろう

答えになってませんぞ

なあ

ただあの時は戯れに声を聴いてくれたら良かったのに

俺は彼女の運命(さだめ)を変えてしまったのかもしれない

女郎花…話に出たことすらなかったような…

(花もぱっと出てこない…)

躑躅とか竜胆とか他に色々くれたのに何故女郎花…

もや

もや

もや

やっぱり鶴丸は最近変だ

あのときも

「そうか　きみだった」

「遅いじゃないか」

「待ちくたびれた」

「俺がどれだけ待ったと思ってる」

…なんのことだか分からなかった

理由(わけ)を聞こうと思ったけど聞きそびれて…

もしかして誰かと私を間違えて

すきっ

なにこれいたい…

…どうしたの？

…あるじさま何かあったの敵襲…

…ではなさそうだけど復讐する？

小夜！何でもないですよ！

程々に休んでってうちの歌仙が…

ありがとう歌仙にもお礼を言わないと…！

ズキ

落ち着こう顔に出して何をやってるんだろう…

ズキ

…あなたがそういう顔するの久しぶりだね

え？

最近はずっと幸せそうだったから

あなたの心は晴れたのかと思ってた

ゆたん

でも ひとは復讐を捨てられるのか

「僕は小夜左文字」

「あなたは誰かに復讐を望むのか」

僕には分からなかったんだ

「…復讐？」

「……」

「そんなこと」

「兄様」

「私は…っ」

小夜…

…あなたが笑ってると なんだかくすぐったいんだ この辺が…

だから

幸せでないのなら あなたの復讐は僕が背負うよ

…小夜

兄様のことは
もういいの
なんでもないの…っ

なんて
優しくて
恐ろしいことを
言わせて
しまったんだろう

心のつかえを
見抜かれた
気がした

私

…ん
…っ

思い出したの

…だ
だめです！

おいもう
夜中だぜ

この後
長谷部が報告に
来るんですよ

仕事
終わって
ないもの

きみと長谷部の
組み合わせは
厄介だな

際限なく仕事を
していそうだ

…そんなこと
言っても

根詰めてないか
心配になるし
第一何もできない
じゃないか

…最近
多くないですか

その…
回数とか…

そうかい？

きみと
肌を合わせるのが
嬉しくてな

無理させて
いたなら
謝ろう

あなたに
聞きたい事が

でも今は
仕事中で

きみは昔あまり
身体が丈夫では
なかったもんなあ

そ
そうでは
なくてですね

あの…っ

ああでも
そういうことは
関係ないのか

ひとというのは
本当に…

誰のことを
言っているの？

私

子供のころから
身体は丈夫でした

いや…

長谷部が来ます

出ていって

おい…

少し時間を下さい

鶴丸は神様で

見ているものが

違うのは当然で

この恋の終わりはいつか

必ずやってくるって

知っているのに

私

欲張りになっていたの

仕事中です

失敗はできない

暫くあなたのこと

考えたくない

それにしても

一期さん来たばかりでその強さ凄いね

いえ私などまだまだ

先にお話しした通り前があってのことだと思います

大和守殿の方こそ流石だ

楽しかった

また手合せお願いします

こちらこそ

今うちで一番お強いのはやはり山姥切国広殿ですかな

ご一緒した出陣では見事な太刀筋でした

そうだね

僕も負けないつもりだけどやっぱり最初のひとふりだから

でも役割はそれぞれ

薬研も小夜も頼りになるし

最初の方からっていうと青江とか粟田口なら骨喰くんも

燭台切さんや石切丸さんなんているだけで安心できるし

…それにやっぱり鶴丸さんがいるから

あの刀(ひと)
軽妙だけど

戦場では
刀そのもので
凄いんだよね

すっ

すみません
大和守殿は
鶴丸殿にだけは
厳しいように思えましたが
褒めてらっしゃるので

はっ!?

…僕だって
分かってるんです
鶴丸さんは
うちにも

なにより主にとって
いなきゃいけない
存在だって

「僕さ」

ただちょっと
最初に
突っかかっちゃったから
引くに引けなく
なったというか…

「あんたのこと
好きじゃないんだよね」

…ずるいし

ははは

成程そういうことだったのですか

たしかにずるいですね

…あれ言ってるそばから鶴丸さんだ

本当ですななんだか随分とらしくないというか…

……

なにやってんの？

大和守

いや別に…
そこには躑躅が
咲いていたなあと
知らんうちに
日は経ってる
もんだよなあ

ふーん…

気障な手紙と一緒に
主に躑躅あげたこと
あったよね

「きみは
躑躅にも似る」
だったっけ

ブッ

何で
きみがそれを
知ってるんだ!?

主が狼狽えてたから
非常事態かと思って
勝手に見ちゃった

知ってる?
主はあの時の花を
押し花にしてるよ

…そうなのか

でも分かるよ
主に躑躅って
似合うね

そうだろう?
鮮やかながら
ひとつひとつの花は
つつましく
可愛らしいんだ

…のろけ?

…さてね

鶴丸さんて あの頃から主が 好きだったの？

パァ

なんだ突然

…

そうだなあ 好きだったん だろうな

なにそれ 曖昧

そりゃ最初から 構いたくは あったんだが

惚れてると 思ったのは そうだな…

「鶴丸？」

……

ああ

暗闇の中 光を 持って来てくれた 時かもなあ…

「こんな夜中に 明かりも持たずに どうしたの」

変な 気分だった

安心するような 高揚するような 幸福なような

その手のぬくもりで 俺は今 己の前にいるのだと 示してくれた

…そうか
恋をしたのは
これが最初

恋慕とは
慈しみと違い
かくも恐ろしい

だが代え難い
幸福だ

俺はきっと
二度は同じ気持ちに
ならないだろう

大和守
きみは
優しいな

…っ
鶴丸さんが
いつもと違って
変に静かだから

喝を入れに来た
だけだよ

礼を言う

おかげで
分かった事が
あるんだ

はい
じゃあ
お願いします
私は報告書を

分かりました

ぱか

かた

…冗談だったのに
ラブレターくれた
嬉しかった…

「後朝のお手紙
下さるんですか」
「…なんて」

鶴丸が

私と誰を
間違えているのか
そうじゃないのか
聞くのが怖い

いつか　かならず　お別れがくる

戦が終わるか
私の命が尽きるか
そのどちらかで

私は人であり
彼はほんのひと時ここに
降りて来てくれている
次元の違う存在

物理的に考えても
ずっと一緒にいられる
はずがない

最初から思ってたじゃない　今だけでもいいって

分かってたのに
どんどん
好きになって

人のそれとは
違うものかも
しれないのに

私は
小夜にあんなこと
言わせたい
わけじゃなかった

……るじ

…主？

どうなさったの
です？

泣いて
おられるの
ですか？

…っ
すみません一期
なんでもな…

ですがどうか
隠さんで下さい

私こそ
申し訳ありません
勝手に

兄君が仰っていました

妹はいつも会えるわけではないからいい子でいようと努め

欲しいものも我慢してしまうのだと

もっと頼って欲しかったと

……

私は

何かあったのでしょう？

きっと鶴丸殿のことで

私でよろしければ恨みつらみでもなんでも

好きなだけお聞きします

…私恋をしていて

いいんでしょうか

兄が死んだ理由を知りたかった

こんな想い知りませんでした

許されないことでもいいと思いました

幸福であることは

幸せでだけど皆の上に立った幸せではいたくない

兄を忘れることなのだろうか

敵に復讐を

私はまずこの本丸の主です

ここに来た時のことも忘れてないのに

…怖くて

どこまで聞いたらいいのか

どこまで

したかったのだろうか

好きになっていいのか

同じものではないのに

…すべて聞いたらいいです

我らと人とは確かに違う

ですが相手に聞かねばそれは片恋のままでしょう？

それに大丈夫
お慕いする貴方が幸福であれば皆も幸福ですよ

無礼は承知で兄君に代わり言わせて下さい

もっと自由になりなさい

……

いちご

小夜

兄様は

どんな最期だったのですか…？

ぽろっ…

…ご自身の信念と誇りを固く貫いた
ご立派な最後でした

大丈夫

私に貴方の事を託しながら
逃げずに在ったのです

…今も誇りに思っています

私はもう
大丈夫だから

……

運命を変えたのならば
その先までも

できないのであれば
その場所
いつでも降りて下され

なんだいち兄
伝達役とは

大将はどうした

大丈夫だよ
少し発破をかけた
だけだからね

おいおい
程々に
してくれよ

それにしても
兄弟とは
似るものだ

主も兄君も
何でもおひとりで
決めてしまわれる

それを鶴丸殿には
汲み取って
いただきたいものだ

……

私とお前は似ているかな？

俺たちは人のそれとは違うだろうよ　俺はいち兄みたいに食わせ者じゃないぜ

お前…

先の事件で表立っては格好いいことを言っていたけれど主を守れなかったと影で一人悔やんでいたではないか

ゴフッ

……

……なんでそれを…

良く頑張ったね

…やめてくれ短刀の俺があんな傍で守れなかったのは恥だ

…そうかそうだね

主をお守りせねば

敵はまだいるのだから

……

この前は

追い出してしまって
すみませんでした

……いや

俺も無粋だった

あなたに お話があって…

俺もだ きみの後でいい

遠いな…

…分かりました

どき

よくばり よくばりに…

どき

すう…

考えたんです

あなたが この前から

私を見ながら 誰か違うひとの事を 言ってるように 思えたり

私を見る目が なんだか違ったり 私の知らない約束を 言ったり

……

…とても 怖くて

そのことで 頭がいっぱいに なるのも怖くて

でも やっぱりこのままじゃ いられなくて

す
すごい我儘を言いますが…
あなたが誰を思い出してるのか分からないけれど この本丸にいる間は
…戦が終わって還るまでお別れする…までだから
誰かと間違うのやめて私と一緒にいてくれませんか…っ
言った！
生まれてはじめて欲しいものを言…っ
待て
…いや
色々待ってくれ…
だ
だめなら仕方な…
カタ
カタ
そうじゃない！
君はどうしてそう…
…いや違う
俺のせいか
すまん

ぞく、

きみひとりだ

いくら俺でも
そんなこと
間違えちゃいない

…好きだ

でも
待ちくたびれた
って…

…だれを

きみだ

江戸の世から
このときまで

きみを
待ち続けていた

それを
思い出したんだ

……

話が

よく…

俺は何度も
きみに出会った
きみの姿形は
変わったがな

ねえ
だが同じきみの
魂だ

俺の声を
聞くことができた

女郎花が
好きな時もあった

身体が弱かった
時もあった

全部
昔のきみだ

……

証拠を
見せよう

…っ！

じゅる。

やめて 鶴…っ

まだ気付いてなかったんだな 自分では見えないか

なにっ…

……っ

あの姿見を見てくれ 腰のところだ

きみが生まれ持ったというこの痣 付けたのは俺だ

霞んでいたのは封をされていたからさ

だが先の事件の際俺が思い出したから印も元に戻ったんだ

……怖いかい？

当然だ

神(おれたち)の
やることなんて
いつも一方的さ

きみに
今一度会いたくて
目印を付けた

するときみは
姿を変えては
俺の声を聞きに
来てくれた

俺はきみを面白がり
慈しみ
憐れんできた

そうしたら
どうだ

前の世では
俺が見えるようになった

そして今生

きみはついに

触れられるように
なった

……

きみは
戦の終わりと共に
俺から離れる
つもりだったのか

あ
待っ

良く

鶴…っ
まだ

俺はきみを
離す気はない

だが

薄々そんなことじゃ
ないかと思っていた

あっ

きみが死ぬと
云うのならば
魂ごと
連れ去ってやる

きみが役目を
終えるなら
人の輪から
外してしまおう

だめ

……
勝手だろう
そうだ

でもう
今までのように悠長に
きみを待てなくなった

俺は

ここで

「きみ」に
恋というものを
してしまった

『私の』

あの夢は

もしかして

「白い」

…そんな顔しないでください

「綺麗な神様」

よくまだ

飲み込めてないけど

いつかの

鶴丸が悲しいのはいやです…っ

私なのだろうか

あなたが好きなの

もう

同じ気持ちでいいんですよね…？

人である私には

全てを理解することはきっとできないのだろう

…ああ

さむくない

まいったな…俺らしくない話をした

すまん

こんなこと言うべきか迷っていた

…違うな

きみに

でも

不思議な気持ちだった

畏れられるのが怖かったのかもしれない…

どうして怖くないんだろう

私

違うことがさっきまであんなに怖かったのに

……きみに もっと触れても いいかい

……はい…

さわって…

あなたが さみしくないなら

もうそれだけでいいと 思ったの

ちゅ

やぁぁ♥

はずかしい…っ からぁ…♥

ちゅ

やぁ♥ もうそこ

あぁ♥

ぢゅ

んっ あっ

っ

そうかい？

きみは どこかしこも 可愛いがなあ

き

は

今日の鶴丸 なんか…

可愛がらせ てくれ いつもより

あっ

ふぁぁ
や…っ♥
あっ♥
もっとな
ぷ
あつくてかたい…
肌を合わせるのが嬉しいのは本当さ
きみが可愛くて仕方がない
あっ♥
パチュン♥
なんせ
あ
こんな
ヌルッ♥
ヌルッ♥
優しいのあうう♥
ヌチュ♥
恋した相手が待ち人だったんだ
驚きも極まれりだ
…なあ

あっ♥

ふあっ♥

チュ

好きだ

きみが

チュッ

あっ♥

つる…っ♥

愛してる

チュッ

チュッ

チュ

あ

あまり

はあっ

言われると

わたし…

ん？

好きだって？

や

くらくら

かーー

するから…っ

すげえ

可愛い

はは…っ

ならもっと

言わなきゃなあ

ぞくっ♥

ぞくっ♥

はぁ

…わ

私だって…っ

あっ

きゅうっ♥

きゅうっ♥

好きです！

すき…っ

あきらめ…られなかっくらい…

ん…っ

ぐぃっ

あっ

諦めないでくれ…っ

やぁ♥あ♥

ぐぃぐぃっ

こんなに

ぐぃぐぃっ

——っ♥

ぐぃっ

つるまる…っふぁぁっ♥

ぐぃっ

離さないから…っ

はー
はー
はー
ちゅ
はぁ
……
……俺は
一度
朽ちることを
是としたんだ
幸せな気持ちになったの
生まれて
初めてだ

これも運命だろうと

若き魂を守り永劫の静寂に

共に溶けていくのだとな

俺はきっと

あのとき一度壊れたのだろう

最初のきみに出会ったのは

まだその暗闇に捕われていた時だった

「陵丸」

…簡単に

きみの運命を俺に縛りつけた

…声を聞いてくれたんだ

不思議なこともあるもんだ

だが俺は多分狂っていた

それが嫌だったなら

……

きっとあなたのこと好きになってませんよ

…きみ

あなたを好きになったのは私の意思です

…それはちょっとなめないでください

あなたのこと朽ちさせないし壊させない

私多分このときを待っていたのかもしれません

…そういえば

私

戦の後のことなんて

あなたを好きになってから初めて考えました

なのでちょっとゆっくり考えてもいいですか…

…分かった

まあきみらしいな

…でも

死ぬような事があったら

もし半ばで

どうぞ

その前に鶴丸が持っていって

……

ありがとう

その日

夢を見た

私は　白い所で

うたっていた

小夜

私の記憶と
…あなたの物語と
背負うんじゃなくて
分かち合いながら
戦の終わりまで
共に在ってはくれませんか
鶴丸国永様
兄の事は忘れられないけれど
私がいま笑えるのはね
小夜がいてくれるからでもあるのよ
あなたの声を聴いてから
ずっと
あなたが寂しくないようにうたっていたの

わたしの

白い

綺麗な神様

もう　離れない